

岡本侑也さん応援レポート

東京フィルハーモニー交響楽団

第102回東京オペラシティ定期シリーズ

2016年6月10日(金)
東京オペラシティ コンサートホール

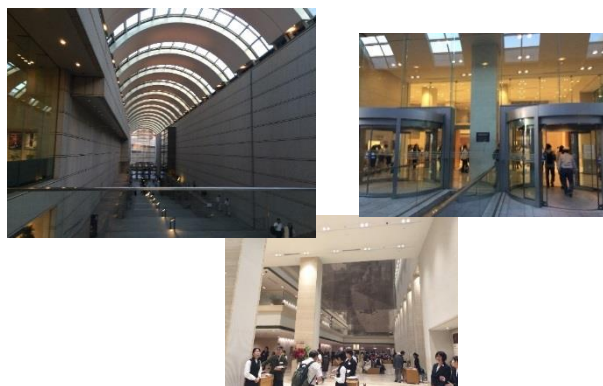
東フィル定期演奏会でのソリストとして

東京オペラシティコンサートホール。現代の最新音響技術を用いて設計されたコンサート専用ホールである。「ホール自身が巨大な楽器となり、引き締まった低音とメローで艶のある音色を奏でる」と、響きの良さには定評がある。

東京フィルハーモニー交響楽団の東京オペラシティ定期シリーズ、尾高忠明氏の指揮、ドヴォルザークで固めたプログラム、岡本さんは、ソリストとしてチェロ協奏曲口短調を演奏する。

東京フィルハーモニー交響楽団は1911年創立の日本のオーケストラでは最も長い歴史をもつオーケストラ。

Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティコンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会を中心とする自主公演や、レギュラーオーケストラである新国立劇場を中心としたオペラ・バレエ演奏、NHKにおける「ニューイヤー・オペラコンサート」「名曲アルバム」をはじめとする放送演奏など、高水準の演奏活動が行われている。今年9月の財団45周年記念コンサートでは、アンドレア・バッティストーニ氏の指揮での演奏が予定されている。



岡本さんから、
「...ドヴォルザークのコンチェルトは、向き合えば向き合うほど、曲の果てしないスケールと深さに圧倒されます。今回は、以前弾かせていただいた時よりも、濃い民族色を感じさせるような演奏を目指したいと思います。」

オペラシティで演奏させていただくのは日本音楽コンクール以来、実に5年ぶりなので、非常に楽しみです。原点に戻るような、気が引き締まる思いです。体調管理などには十分に気を付けて、本番は思い切り楽しみたいと思います」とのコメントが届いている。

果てしないスケールと深さの曲をゆったりと豊かに



今日はドヴォルザークで固めたプログラム。1曲目、序曲「謝肉祭」が始まる。

謝肉祭＝カーニバルのタイトルどおり、はじけるような活気あふれるメロディーが鳴り響く。金管楽器や打楽器の音も軽快に。気分もぐっと盛り上がる。



拍手に迎えられ、岡本さん登場。初めてだという燕尾服での正装、よくお似合いだ。

チェロ協奏曲口短調。ドヴォルザークのアメリカ滞在時代に作曲された名作中の名作、「ドヴォコン」として愛される。故郷ボヘミアへの望郷の思いが濃厚に表れているという名曲、演奏するのは3度目とのこと。



オケが旋律を奏でたのち、岡本さんのチェロが始まる。澄んだクリアな音、とてもよく鳴っている。

第2楽章。ゆったりと豊かにチェロが歌う。落ち着いた雰囲気。安定感のある音色がとてもきれいだ。

民族色を感じさせる旋律ではじまる第3楽章。コンサートマスターとの掛け合いも見事に。

オーケストラとの一体感のもと、ラストに向けてぐっと盛り上がって演奏終了。

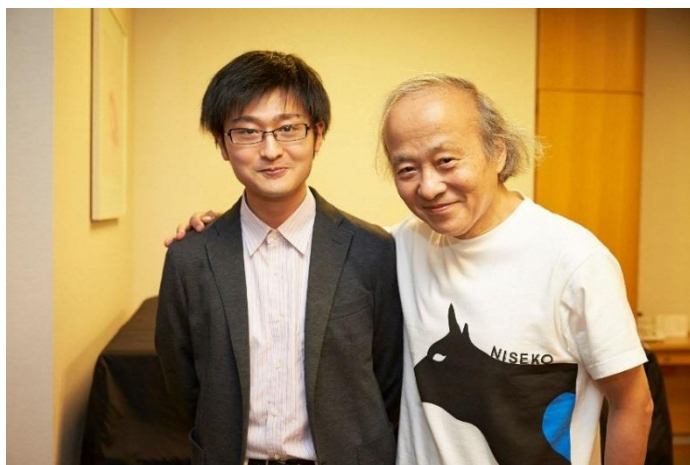


満場の拍手。ブラヴォーが何度も飛び交う。指揮の尾高忠明氏、コンサートマスターの三浦章宏氏とがっちり握手。



写真ご提供：東京フィルハーモニー交響楽団 撮影：上野隆文氏

読み解くほどに湧きあがる思いを込めて



終演後、
楽屋でマエストロと。

写真ご提供：東京フィルハーモニー交響楽団 撮影：上野隆文氏

終演後の岡本さんに、話を聞いた；

ー ドヴォコン、いかがでしたか
「あっという間でした。楽しかったです。
流れもよく、気付いたら最後までいって
いた…という感じでした」
「…心から楽しんで弾けました。やっぱり
いい曲ですしね」

ー ドヴォコンを弾かれるのは3回目；
「…譜面を読み解けば読み解くほど、ど
んどん新しいものがわきあがってくるとい
うか、果てしない曲だと感じます。それが
楽しくてしょうがない曲でもあります。曲に
取り組むという意味では毎回、楽しみが
あります」

ー コンツェルトの演奏は；
「…オケパートにも取り組んで勉強して、
それを自分の演奏に乗せるようにしてい
ます。数を重ねて、経験を積んでいき
たいです」

ミュンヘン音楽大学在学中の岡本さん、この
夏が過ぎたら、4年目を迎える。新たな1年
については、「…もっと自由にうたって、もっ
と表現を広げ、もっと刺激的な」と、抱負を
語ってくれた。

生後3か月～小学校時代をドイツで過ごし
た岡本さん、「…言葉自体がイメージを含
む響きがあるので、それを演奏に乗せていく
にはドイツ語のほうが…」と、音楽的なアイ
デアはドイツ語で考える方がイメージが膨ら
みやすいそうだ。充実の留学生活がうかが
われた。

岡本さん、
素敵な演奏でした。
また
聴かせてください！



楽屋で新奨学生・水野優也さんと



<演奏会概要>

◆出演

指揮：尾高忠明

チェロ：岡本侑也*

コンサートマスター：三浦章宏

管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

◆プログラム

ドヴォルザーク／序曲『謝肉祭』

ドヴォルザーク／チェロ協奏曲*

ドヴォルザーク／交響曲第8番

【コンサート・フライヤー(表)】

2016-17シーズン定期演奏会

東京フィルハーモニー交響楽団

指揮: 尾高忠明 チェロ: 岡本侑也

ドヴォルザーク: 序曲『謝肉祭』
チェロ協奏曲
交響曲第8番

Subscription Concert 2016-17 Season Tokyo Philharmonic Orchestra
Conductor: Tadaaki Otaka Cello: Yuya Okamoto
Dvorak: "Carnival" Overture
Cello Concerto
Symphony No.8

Tadaaki Otaka

6.10 (金) 19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール
June 10(Fri) 19:00 Tokyo Opera City Concert Hall

主催: 公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル
スポンサー

SONY

Rakuten

マルバ

LOTTE

ゆうちょ銀行

©上野啓文

第102回東京オペラシティ定期シリーズ **6.10 (金) 19:00開演** 東京オペラシティ コンサートホール

ドヴォルザークの迸る抒情と躍動、 尾高忠明の深化と清新をきく

6月唯一の定期演奏会は桂冠指揮者・尾高忠明が贈る
オール・ドヴォルザーク・プログラム。

昨年7月共演したマーラー交響曲第9番は、「格調高く穏やかで、生への励ましさえ感じさせる人間味あふれる音楽運び(音楽の友)」。「尾高の巨匠としての熟成とオケの実力を示す熱演(音楽現代)」など絶賛を博しました。

交響曲第8番はドヴォルザークの豊かな抒情性を存分に発揮した名曲。熟練の棒と長年の信頼関係から生み出される誠実な音色に期待が高まります。

そして人気の高い「チェロ協奏曲」のソリストには岡本侑也が登場。岡本侑也は1994年生まれ、両親とも音楽家のもとドイツで育ち、現在ドイツ・ミュンヘン音楽大学に留学中。2011年日本音楽コンクールチェロ部門第1位、小澤征爾音楽塾オーケストラへの参加など国内外で研鑽と実績を積み、将来を展望される音楽家として注目を集めています。

名匠と俊英が紡ぐ名旋律の数々をお楽しみください。



岡本 侑也 (チェロ)



1947年生まれ、東京フィル桂冠指揮者。国内主要オーケストラへの定期的な客演に加え、海外での活躍も数多く、1997年から首席指揮者を務めた琉球交響楽団のBBCウェールズ・ナショナル管弦楽団(BBCウェールズ交響楽団)とは「オーケストラとの8年、尾高はウェールズで客演を行った(ロンドン・サンデー・タイムズ紙)」と高い評価を得ている。2015年にもBBCプロムスへ出演。

尾高忠明 指揮

料金 SS席(限定プレミアムシート) ¥15,000/S席 ¥10,000/A席 ¥8,500/B席 ¥7,000/C席 ¥5,500

【チケットのお申込み・お問合せ】

東京フィルチケットサービス(平日10:00~18:00)

03-5353-9522

東京フィルWEBチケットサービス(クレジットカード決済 24時間受付)

http://www.tpo.or.jp/

【プレイガイド】

■東京オペラシティチケットセンター 03-5353-9999

■チケットぴあ 0570-02-9999 <http://t.pia.jp/> [Pコード:293-549]

■イープラス <http://eplus.jp/>

■楽天チケット <http://ticket.rakuten.co.jp/>

■ローソンチケット 0570-000-407 <http://l-tike.com/> [Lコード:34259]

■東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

※託児サービス(有料・要予約) イベント託児・マザーズ 0120-788-222

※演奏中止が実施間のお入場はお断りしております。※やむを得ない事情により、出演者・演奏曲目・数量などが変更されることがあります。※ご予約後のキャンセルは承れません。※公演中止の場合を除き、チケット代金の払い戻しはいたしませんので、ご了承ください。※未成年者のお入場はお断りしております。

**さまざまな
割引
サービス**

東京フィルフレンズ割引 入会金・年会費一切無料。優先予約やチケット料金の10%OFFなどさまざまな特典がご用意されています。

車椅子割引 車椅子での来場の方は指定ブロック席にて、S席料金の50%OFFにてお楽しみいただけます。同席空席1名は無料となります。

特別割引 身体障害者手帳をお持ちの方は、一般料金の50%OFFでお求めいただけます。

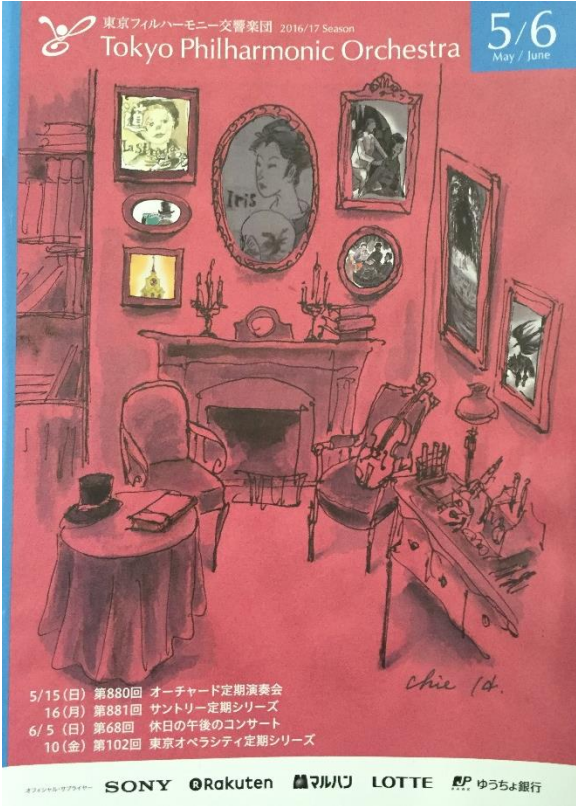
学生割引 公演当日に現席がある場合、開演1時間30分前より各ホール毎に券額半額にて、1,000円で席を確保いたします(要学生証)。座席をお選びいただけません。

東京フィル 検索

Tokyo Philharmonic



【コンサート・プログラム（冊子形式のため関連ページのみ掲載）】



第102回東京オペラシティ定期シリーズ The 102nd Tokyo Opera City Subscription Concert

6/10(金) 19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール
Fri. June 10, 2016, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

指揮◎尾高 忠明 Tadaaki Otaka, conductor

チェロ◎岡本 侑也* Yuya Okamoto, cello

コンサートマスター◎三浦 章宏 Akihiko Miura, concertmaster

6
10

ドヴォルザーク:序曲『謝肉祭』作品92 (B.169) (約10分)
Antonin Dvořák: "Carnival" Overture, op. 92 (B.169) (ca. 10 min)

ドヴォルザーク:チェロ協奏曲 口短調 作品104 (B.191)* (約40分)
Antonin Dvořák: Cello Concerto in B minor, op. 104 (B.191)* (ca. 40 min)

- I. アレグロ Allegro
- II. アダージョ、マ・ノン・トロツポ Adagio, ma non troppo
- III. フィナーレ:アレグロ・モデラート Finale: Allegro moderato

— 休憩 Intermission (約15分) —

ドヴォルザーク:交響曲第8番 ト長調 作品88 (B.163) (約34分)
Antonin Dvořák: Symphony No. 8 in G major, op. 88 (B.163) (ca. 34 min)

- I. アレグロ・コン・ブリオ Allegro con brio
- II. アダージョ Adagio
- III. アレグレット・グラツィオーソ Allegretto grazioso
- IV. アレグロ・マ・ノン・トロツポ Allegro ma non troppo



主催:公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団 / 助成:文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)
Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra / Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan

6月のマエストロ



桂冠指揮者 尾高 忠明

Tadaaki Otaka,
Conductor Laureate

「格調高く穏やかで、生への動かしさを感じさせる、人間味あふれる音楽運び」

(『音楽の友』2015年9月号 2015年7月定期演奏会評より)

「後ろ姿を見る限り抑鬱気味の偉大がそこに秘められた強力な牽引力」

「尾高の巨匠としての熟成と、オケの実力を示す熱演」

(『音楽現代』2015年9月号 2015年7月定期演奏会評より)

6月、桂冠指揮者 尾高 忠明が取り上げるのは、チェコの大作曲家ドヴォルザークと日本を代表する作曲家の作品。いずれもいまから約30年経ち、1980年代に若きマエストロ尾高と東京フィルがヨーロッパ演奏旅行などでたびたび取り上げた、思い深い楽曲たちです。年月を経て確かめ合う互いの信頼と進化を、どうぞお楽しみください。

10

指揮者プロフィール

出演者プロフィール

尾高 忠明 指揮

Tadaaki Otaka, conductor

1947年生まれ、国内主要オーケストラへの定期的な客演に加え、ロンドン交響楽団、ロンドン・フィル、BBC交響楽団、バーミンガム交響楽団、ベルリン放送交響楽団、フランクフルト放送交響楽団等へ客演している。2015年1月にはジュリアード音楽院での「Focus! 2015日本の現代音楽」公演にて、武満、三善、吉松作品を指揮し高い評価を得た。4月にニコライ・マルコフ国際指揮者コンクール審査員を務めたほか、5月ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団に客演、8月にはBBCプロムスに出演した。

海外での活躍ははじまり1987年から首席指揮者を務めたBBCウェールズ・ナショナル管弦楽団(旧BBCウェールズ交響楽団)とは「オーケストラとの8年間、尾高はウェールズで奇跡を行った(ロンドン・サンデータイムズ紙)」と高い評価を得ている。

これまで1991年度第23回サントリー音楽賞受賞。1993年ウェールズ音楽演劇大学より名誉会員の称号、ウェールズ大学より名誉博士号を、1997年英皇エリザベス女王より大英勲章CBEを授けられた。さらに1999年には英皇エルガー協会より、日本人初のエルガー・メダルを授けられている。2012年有馬賞(NHK交響楽団)、14年北海道文化賞受賞。

現在NHK交響楽団正指揮者、BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団桂冠指揮者、札幌交響楽団名誉音楽監督、東京フィルハーモニー交響楽団桂冠指揮者、読売日本交響楽団名誉客演指揮者、紀尾井ホール・東京交響楽団名誉客演指揮者、また東京藝術大学名誉教授、相模音楽大学、京都府立芸術大学音楽学部客員教授、国立音楽大学特別教授を務めている。



© Masaki Tachibana

6
10
6
5

11

岡本佑也 チェロ

Yuya Okamoto, cello

1994年東京生まれ。

日-J、ゼーフルート、山崎神子、W-S、ヤンの各氏に師事。W.ベッチャー、M.ペレーニ、N.グートマン、G.リヴィニウス、J-P.マインツ、現職各氏のマスタークラスを受講。

2004年ドイツ音楽協会主催青少年音楽コンクールバイエルン州地域部門第1位、併せてバイエルン放送局特別賞を受賞。2011年第80回日本音楽コンクールチェロ部門第1位、併せて岩谷賞(聴衆賞)を含む4つの特別賞を受賞。

第1回国際音楽祭、第1回芸術フェスティバル、新日本フィル「新・クラシックへの扉」、紀尾井ホール「紀尾井 明日への扉」、サントリーホール「成人の日」コンサート、王子ホール「MAROワールド」、プラハでの「国際音楽祭ヤン・プラハ」への出演(2015年9月)等、リサイタル、室内楽、そしてオーケストラとの共演とすでに第一線で演奏活動を展開、「大器を予感させる才能」と今後が注目されている。

これまでに東京都交響楽団、日本フィル、新日本フィル、バート・ライヒェンハル管弦楽団などと共演。

(公財)江崎記念財団第42期奨学生、(公財)ローム音楽財団2013年度・2014年度奨学生。

第25回(2014年度)新日本交響楽団金賞賞プレッジュアーティスト賞受賞。

現在、ドイツ・ミュンヘン音楽大学に在学中。



© Shigeo Kato

6
10

12

音楽解説

楽曲解説

[解説] 野本 由紀夫

6/10(金) 第102回 東京オペラシティ定期シリーズ

● オール・ドヴォルザーク・プログラム

ドヴォルザーク (1841-1904)
序曲『謝肉祭』 作品92(※169)

『謝肉祭』作品92は、演奏会用三部作「自然、人生、愛」の第2曲である。第1曲が「自然のなかで」作品91、第3曲が「オネロ」作品93だが、圧倒的に『謝肉祭』が観客に演奏される。

ドヴォルザークは、『謝肉祭』をわずか1か月半(1891年7月28日から9月12日)で作曲した。その間に彼は50歳の誕生日を迎えている(9月4日)。すでに国際的な名声を得ていたドヴォルザークは、前年にはケンブリッジ大学と母国ブラハ大学から名誉博士号を授けられ、『謝肉祭』はブラハ大学への祝賀として作曲された。

ところで、『謝肉祭』(カーニバル)は復活祭(イースター)と関係が深い。そもそもキリスト教では、十字架刑で亡くなったイエスの復活こそが、宗教上もっとも重要な意味をもつ。その復活祭(3月から4月にかけての移動祝日)を迎える前の40日間(四旬節)の断食(もととは「肉断ち(Caro vale)」)の直前に、ごちそうをたらふく食べてどんちゃん騒ぎするお祭り、それがカーニバル(Carnival)なのである。

ドヴォルザークの『謝肉祭』も、このお祭り騒ぎをほうふつとさせる。冒頭からはじめるような活気あふれる主題がはじまり、お祭り気分を引き込まれる。トロンボーンやチューバだけでなく、タンブリンやトライアングルも大活躍する(この曲はよく、打楽器奏者のオーケストラ(打楽器隊)の楽譜になる)。

喧騒が一変すると、フルートやオーボエによる別世界(中絶部)が訪れる。このメロディは、第1曲「自然のなかで」の「自然をあらわす主題」である。短いヴァイオリン独奏のあと、お祭りの喧騒がまた戻ってくると、盛り上がりは最高潮に達し、トゥッティ(オーケストラ全員による強奏)の熱狂のうちに曲は閉じられる。

【楽譜解説】フルート2、ピッコロ、オーボエ2、イングリッシュホルン、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、チューバ、ティンパニ、打楽器(トライアングル、タムタム、タンブリン、タンバリン、ハープ、弦楽5部)

19

音楽解説

楽曲解説

ドヴォルザーク (1841-1904)
チェロ協奏曲 口短調 作品104 (※191)

6/10(金) 第102回 東京オペラシティ定期シリーズ

● オール・ドヴォルザーク・プログラム

ドヴォルザーク (1841-1904)
チェロ協奏曲 口短調 作品104 (※191)

第2楽章は同年6月11日に完成したが、最後の最後に出てくる、コンサートマスターの独奏するメロディは、まさに歌曲「私にかまわないで」なのである。ドヴォルザークはこれにより、ヨゼフィーナに対する愛情の意をこの協奏曲に刻み込んだのであった。

第1楽章 アレグロのソナタ形式の楽章。ブラームスも絶賛した、旋律的な魅力にあふれる楽章である。チェロの美しい音色と、非常に難しい技巧的な演奏が、交響的なドラマのなかで美しく融合している。

第2楽章 アダージョによる抒情的な緩徐楽章。大きくA-B-A'の3部形式で、中間のB部分が、歌曲「私にかまわないで」のメロディである。原曲の歌詞の大意は「あの人は私を愛している！孤独な私の魂に、夢見が許されますように」というもの。なかなか意味深長である。

第3楽章 アレグロによる自由なロンド形式の楽章。民謡色が豊かである。先述のとおり、終結部のコンサートマスターのヴァイオリン独奏が「私にかまわないで」のメロディ。その歌詞の後半は、「あなたの心を、すべてが死の苦しみへと振り立てるとき、あなたは幸せをもたらすものが何であるかをわかるでしょう」となっている。この歌詞の内容を考えると、ヨゼフィーナの死がドヴォルザークに与えたショック、彼に残したものの大きさが窺い知れよう。

【楽譜解説】フルート2、ピッコロ、オーボエ2、イングリッシュホルン、クラリネット2、ファゴット2、ホルン3、トランペット2、トロンボーン2、チューバ、ティンパニ、打楽器(トライアングル、タムタム、タンバリン、タンバリン、ハープ、弦楽5部)

21